

ドリコムアイマガジン

高校生の進路と教育を考える

高校の先生のための情報誌



高校教育 **最** 前線 ルポ

SGH後継プロジェクトやオナークラスの展開で、地域を支えるグローバル人材を育成

高崎市立高崎経済大学附属高等学校
進路指導主事 野村 和弘 先生に聞く

群馬県の中核都市・高崎市に位置する高崎市立高崎経済大学附属高校。地元では“高経附”の呼称で親しまれている男女共学普通科進学校だ。女子校を礎に1994年から男女共学化し、多様な個性と才能の伸長を図っている。進取・創造の学校づくりを旗印に、芸術教育・部活動にも力を注ぎ、近年は進学校としてオナークラスの設置や高大連携事業の推進、SGH後継プロジェクトなど、文・武・芸にわたる魅力ある教育を展開。英検全員受験など共通テスト対策になる能力養成も進めている。進路指導主事の野村先生に、特徴ある取り組みや今後の展望を聞いてみた。

「自主自律・自学自習」を校訓として、一人ひとりが輝ける機会を提供
自由闊達な校風が人気

本校は1924(大正13)年に高崎実践女学校として創立し、戦後の学制改革により1947(昭和22)年に高崎市立女子高等学校に改称。女子校としての歴史を礎に、1994(平成6)年に高崎市民の熱い要望を受けて男女共学普通科の高崎市立高崎経済大学附属高校となり、現在に至っています。

「自主自律・自学自習」を校訓として、基礎基本を重視した確かな学力を身に付けると共に、部活動や特別活動による人間性と技能の研磨を両立。高い理想を掲げてそれを追求しようとする向上心に満ちた人材、多様な異文化理解と英語のコミュニケーション力の高め、これからのグローバル社会で活躍できる人材育成に努めています。

本校はかつて人文科学系・社会科学系・自然科学系・体育系・芸術系の5系を設置していましたが、前者3系を普通科に統合し、体育系の募集は停止。現在は普通科普通科コース(文系4クラス・理系3クラス)、普通科芸術コース(音楽系・美術系)1クラスの1学年8クラス体制です。

Contents

- 1 高校教育最前線ルポ
高崎市立
高崎経済大学附属高等学校
進路指導主事 野村 和弘 先生
- 4 女性高等教育最前線ルポ
法政大学
総長 田中 優子教授に聞く
- 6 EYE's Journal 《ICT実践校レポート》
先生とアプリ Part.2
～ICT 教育先進校に聞く～
神奈川県立生田高等学校 / 聖徳学園中学・高等学校
- 12 ティースタライフ
浦和実業学園高等学校
進路指導主任 齋藤 良輔 先生

発行 株式会社日本ドリコム

ドリコムアイ.net 編集室
〒171-8582 東京都墨田区高田 2-17-22 目白中野ビル 5F
TEL: 03-6746-0060 E-Mail: eyemail@dricomeye.net
ドリコムアイ.net についてのお問合わせ

担当

※本誌に掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。

高校教育最前線レポート

独自の視点で、現場を取材
高崎市立高崎経済大学附属高等学校

全学年1学級35人を基本とした少人数の学級編成を行い、授業はもちろん担任との面談などきめ細かい指導を実現しています。

普通コースでは各学年で文系と理系に1クラスずつ「オナークラス」を設置。オナーとは他を先導する意味もあり、毎年希望者の中から選抜されます。通常履修するカリキュラムの上に大学や研究所等と連携した体験型の学習プログラムを設け、学ぶ意欲や考える力を高めています。

芸術コースでは1年次から専門科目を履修し、音楽、美術を専門的に学びます。音楽系は、音楽のある

高大コラボゼミや探求活動を活発に展開 向上心を刺激し、思考力・表現力を高める

男子校・女子校の伝統校も多い群馬県の中で、本校は男女共学で躍進しているといえるでしょう。しかし、中学生への説明会や学校行事も生徒が主体となって運営するため、中学生から見ると本校の生徒はイキイキと青春を謳歌しているように映るようです。ページュ&グリーンを基調

街・高崎を象徴するもので、外部講師の多さも特徴です。例えば群馬交響楽団の演奏家である講師の指導を受けられるなど、レベルの高い指導により、生徒の技術向上を図っています。また部活動も活発で吹奏楽部は2018年に西関東大会で金賞を獲得し、東日本大会に出場するなど高い成果を上げています。また、美術系も東京芸術大学などに対応した受験指導に定評があります。生徒も絵画や彫刻に打ち込む情熱は大きく、美術部や美術展などの活動、各種コンクール等でも高い実績を築いています。

とした制服もまた眩しく感じるようで、人気を集めています。

単に楽しい学校というだけでなく、さまざまな活動を通して主体性を身につけ、幅広い興味関心の中から自分の進路実現につなげられる自由闊達な校風があると自負しています。本校が特に力を入れているのが、

高校・大学・産業等の協働による地域コミュニティを支える人材の育成です。2014(平成26)年度からの5年間は、文部科学省から「スーパードグローバルハイスクール(SGH)」に指定されました。今年度からはSGH後継事業として「TSUBASAプロジェクト」という活動を進めていきます。高・大・産の連携によって行う課題研究「日本企業の海外戦略」を柱に、1年次は高崎市内の企業の海外進出等の現状と課題を調べ、2年次は日本の大手企業の仕組みと評価方法を研究し、3年次は日本企業の海外戦略の現状と課題を調べるといふ流れで研究を積み重ねていきます。

これは将来、地域(高崎市)経済の担い手の創出や地域の防災に携わる人材、この地域の発展を日本や世界へつなげていくことができるグローバルリーダーの育成を図ることが大きな目的です。特に「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」「コミュニケーション能力」「リテラシー」「ツールとしての英語

力」「異文化に対する理解力」等自身につけることが目的です。

このプログラムは文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)の地域協働推進校(アソシエイト)」という指定を受けています。今後、この事業の指定校として校内外へ教育活動を発信していく計画です。

文系・理系に各1クラス設置したオナークラスの目的としては、①主体的な活動を促すことで興味関心を高め、学習意欲や進路意欲の向上を図る、②企業や研究所等との連携を深めることで生徒の積極的な社会参画の姿勢を育てる、③報告書の作成や発表会を行うことにより、思考力・判断力・表現力を身につけることが挙げられます。

実際、文系のオナークラスでは1年次に高崎市内で海外進出している企業と連携したグローバルリレー講話、高崎経済大学の先生方が審査するディベート大会などに参加しています。2年生・3年生では高崎経済大学の経済学部とのゼミと連携

したコラボゼミを実施。これはSG
日事業の一環でもありましたが、昨
年の3年生は日本航空(株)やIHI、
キユーピー(株)など大企業などを対象
に海外戦略の事例を研究。8月には
本社訪問・インタビュー、9月には
高崎経済大学において大学生によ
る発表の後、本校生による概要説明
(英語でのスピーチ)や研究成果の
発表などが行われました。限られた
時間の中で、生徒は発表内容やスラ
イドに工夫を凝らし、堂々と発表し
ていたようです。

早朝や放課後補習で、 切り替える力を高め、 広い視野を持つて社会へ

これらオーナークラスのプログラム
やSGH活動で培ってきたノウハウ
を生かしながら教育活動を進めてき
たことは、大学入学共通テストで求
められる思考力や表現力の育成につ
ながる価値があると思っています。
まもなく共通テストで記述式や英
語の民間試験導入が行われますが、
本校は従来からALT(外国人教員)
を活用してコミュニケーション力を
高めていますし、生徒全員が実用英
語検定を受検しているので、その点
でもあまり心配していません。実際
卒業までにはほぼ全生徒が英検準2級

3年間を通じて多彩な実験や探求活
動を体験します。例えば新潟大学
の佐渡研修センターに向き、ウニ
を使った発生物学の実験をしたり、ぐ
んま天文台で天体観測をしたりし
ています。他にも足利大学と連携し、
「ソーラークッカー」という太陽熱
を利用して料理を作る装置の作製を
通して自然エネルギーについて探求
したり、前橋工科大学とは筋肉を動
かす時に出る微弱な電気信号を変
化させてロボットを動かす研究も実
施。いずれも実験過程や結果をまと
め、成果発表会につなげています。

部活動との両立を後押し 広い視野を持つて社会へ

に合格し、2級、準1級を取得する
生徒もいます。
またアメリカや韓国への海外研修
や姉妹校交流等を通して、異文化体
験と国際理解教育を積極的に進めて
います。米国研修はボストン市に生
徒(希望者…例年約20〜30人)と教
職員を派遣。私も一度引率しました
が、午前中は語学研修、午後は現地
で起業した日本人起業家の話を聞い
たり、マサチューセッツ工科大学や
ハーバード大学の大学院生の話を聞
いたり。海外では「自ら主体的に発
信してこそ存在が認められる」こと

を体感する良い機会となっています。
進路指導は1年次に都内の大学を
見学するなど、早期に進路目標の確
立を図り、キャリア教育では看護師
志望の生徒向けに病院でのインター
ンシップを実施。受験対策としては、
近年は希望者を対象に7時半から早
朝補習を実施しています。

本校は3年のインターハイまで部
活動を頑張る生徒も多いため、先生
も協力するかたちで早朝補習、さら
に放課後の部活動後もシルバー人材
の見守りのもと、夜20時30分まで
自習できる体制を完備。部活動を一
生懸命頑張る生徒にとっては、学校
である程度勉強を終わらせられると
あって、保護者の理解のもと自習室
を活用する生徒は増えています。

本校の進路状況は1学年280人
のほとんどが進学希望で、大半が大
学、20人前後が専門学校、数人が
公務員としての就職です。群馬県内
東北や北陸、関東、首都圏の国公立
大学や私立大学に広く入学していま
す。

本校は学校生活を謳歌する生徒が
多く、文化祭や体育祭、球技大会、
演奏会、作品展などで大いに盛り上
がりを見せます。ただ、いざ受験に
本腰を入れるという時の切り替えが
少し遅い面があり、うまくスイッチ

させることが課題といえは課題です。
近年は生徒も保護者も地元志向が強
く、内向き傾向も否めません。

私たち教員も課題を与えて早め
に学習習慣を付けるとともに、広
く社会・世界に目を向けさせ、い
ろいろな大学の良さを紹介しながら
モチベーションアップに努めていま
す。例えば国公立大を志望するなら
後期試験まで、諦めず立ち向かうよ
うな粘り強さが欲しいと感じること
も。早期に目標をもつことで、計画
的に「今」を頑張る。それが自主・
自律的な学習・生活態度につながる
でしょう。

今後も学校内外に豊富な学習機
会を提供し、生徒の好奇心や潜在能
力を目覚めさせると共に、多様な他
者との協働体験を通してグローバル
社会や地域社会で活躍できる人材が
育ってくれたらと思っています。



●インタビュー
高崎市立
高崎経済大学附属高等学校
進路指導主事 野村 和弘 先生